

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月8日

【四半期会計期間】 第3期第2四半期(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

【会社名】 アートsparkホールディングス株式会社

【英訳名】 ArtSpark Holdings Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 川 端 一 生

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

【電話番号】 03-3710-2985

【事務連絡者氏名】 取締役 星 和 彦

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

【電話番号】 03-3710-2985

【事務連絡者氏名】 取締役 星 和 彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第2期 第2四半期 連結累計期間	第3期 第2四半期 連結累計期間	第2期
会計期間		自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日
売上高	(千円)	1,858,689	1,437,632	3,685,419
経常利益又は経常損失()	(千円)	28,152	229,939	68,222
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失()	(千円)	17,401	226,855	42,811
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	3,375	227,936	62,933
純資産額	(千円)	2,348,610	2,077,620	2,286,213
総資産額	(千円)	3,892,447	3,549,323	3,650,704
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額()	(円)	2.62	34.14	6.45
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			6.43
自己資本比率	(%)	59.8	57.4	61.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	262,643	244,832	358,484
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	220,873	256,777	163,135
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	24,384	104,188	48,473
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	958,661	971,745	1,088,291

回次		第2期 第2四半期 連結会計期間	第3期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日
1株当たり四半期純損失金額()	(円)	28.01	24.45

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第2期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。また、第3期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

特定子会社の異動はありませんが、第1四半期連結会計期間において、株式会社エイチアイ（当社の連結子会社）が、株式会社エイチアイ関西の株式を取得したため、連結の範囲に含めております。これに伴い、当第2四半期連結会計期間より損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書を連結しております。

また、平成26年4月15日付で株式会社エイチアイが、株式会社U'eyes Designの株式を取得し、子会社化しております。これに伴い、当第2四半期連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

携帯端末市場の中心がスマートフォンへと急速に移行していく中で、当社グループは積極的に事業構造改革を進めており、コスト削減と利益率の向上を目指す一方で、戦略投資事業における投資の成果であるソリューション事業の強化及びUI/UX（ユーアイ/ユーエックス）事業の市場拡大を進めております。

当第2四半期連結累計期間においては、各事業セグメントにおいて、継続的に販売活動の強化を推進するとともに、前連結会計年度に実施した事業構造改革の成果による人件費や減価償却費の軽減が売上原価及び販売管理費の圧縮に貢献しており、クリエイターサポート事業が黒字化に至っております。また、UI/UX事業における関西地域の事業拠点とする目的で株式会社エイチアイ関西を孫会社化し、車載機向けを中心とした事業展開の推進を強化するとともに、戦略的業務提携を締結していた株式会社U'eyes Designを孫会社化し、「デザインエンジニアリング」の一層の強化を進めております。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は1,437,632千円（前年同期22.7%減）となりました。

UI/UX事業においてモバイル向けのロイヤリティ収入が減少した影響で、営業損益は218,158千円の営業損失（前年同期は17,305千円の営業利益）となりました。

経常損益につきましては、為替差損3,374千円の計上や、当社の持分法適用会社であるガラット株式会社に対する投資持分について、持分法による投資損失2,773千円を計上したこと等により、229,939千円の経常損失（前年同期は28,152千円の経常利益）となりました。純損益につきましては、株式会社エイチアイ関西の取得による負ののれん発生益13,849千円の計上等により、226,855千円の四半期純損失（前年同期は17,401千円の四半期純利益）となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

<コンテンツソリューション事業>

コンテンツソリューション事業の中心である携帯電話市場におきましては、平成26年3月末で国内携帯電話加入契約数が1億3,955万台（前年比5.9%増）となっております。（社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」より）

また、2013年度（平成25年4月～平成26年3月）の国内携帯電話端末の総出荷台数は、前年度比5.7%減の3,941万台と3年度ぶりに4,000万台を下回る結果になりましたが、総出荷台数に占めるスマートフォン出荷台数比率は75.1%（前年比4.0%増）となっております。（株式会社MM総研発表より）

このような経営環境の中、平成26年4月に電子書籍ビューア「BS Reader for Browser」がソフトバンクモバイル株式会社の提供するスマートフォン向け総合電子書籍サービス「スマートブックストア」に採用される等、「BS Reader for Browser」が利用されている電子書籍配信サービス数は、平成26年6月末では800サービス超となっております。

以上の結果、総合電子書籍ビューア「BS Reader」を軸として推進するコンテンツソリューション事業の売上高は586,546千円（前年同期比8.3%減）、営業利益は32,111千円（前年同期比33.7%減）となりました。

<クリエイターサポート事業>

当第2四半期連結累計期間では、当社子会社セルシスの販売代理店Smith Micro Software, Inc.から、イラスト・マンガ制作ソフト「CLIP STUDIO PAINT」の英語版/ダウンロード版が発売されました。北米、ヨーロッパにおいて同製品のマーケティングを強化してまいります。

なお、クリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」においては、平成26年6月末時点の登録者数は41万人となっております。

以上の結果、売上高は352,726千円（前年同期比21.6%増）、営業利益は14,531千円（前年同期は61,576千円の営業損失）となりました。

<UI/UX事業>

当第2四半期連結累計期間では、「デザインエンジニアリング」をテーマに、自動車関連分野を中心に受託開発収入が堅調に推移し、顧客基盤の拡大が進んでおります。一方、利益率の高いロイヤリティ収入が、モバイル向けを中心に前年同期との比較で大きく減少しております。費用面では、開発プロセスの管理強化等の施策によって外注費の削減が進んでおり、製造費用が減少しております。今後の事業拡大に向けて、関西方面での顧客対応の強化策として、株式会社エイチアイ関西を平成26年2月に孫会社化いたしました。また、「デザインエンジニアリング」の活動を強化しその推進を加速させる目的で、株式会社U'eyes Designを平成26年4月に孫会社化いたしました。

以上の結果、売上高は453,765千円（前年同期44.2%減）、営業損益は293,880千円の営業損失（前年同期は1,032千円の営業利益）となりました。

<アプリケーション事業>

前連結会計年度より事業の縮小を進めております。継続中の一部サービスにおける運用業務の手数料等を収益計上しております。

以上の結果、売上高は82,779千円（前年同期比30.7%減）、営業利益は28,621千円（前年同期は2,058千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べて101,381千円減少し3,549,323千円となりました。この主な要因は、仕掛品が41,665千円、ソフトウェアやのれん等の無形固定資産が248,345千円増加した一方で、現金及び預金が214,772千円、売掛金が190,023千円減少したこと等によるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べて107,212千円増加し1,471,703千円となりました。この主な要因は、買掛金が32,149千円減少した一方で、短期借入金32,364千円増加、長期借入金102,996千円増加したこと等によるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて208,593千円減少し2,077,620千円となりました。この主な要因は、新株予約権が3,749千円、少数株主持分が9,922千円増加する一方で、利益剰余金が226,855千円減少したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ116,545千円減少し、971,745千円となりました。なお、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、244,832千円（前年同四半期は262,643千円の獲得）となりました。これは主として、税金等調整前四半期純損失216,649千円の計上や負ののれん発生益13,849千円の計上等があったものの、減価償却費の計上271,862千円、売上債権の減少額274,488千円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、256,777千円（前年同四半期は220,873千円の使用）となりました。これは主として、定期預金の払戻による収入100,062千円等があったものの、ソフトウェア等の無形固定資産397,832千円の取得、有形固定資産11,395千円の取得等の支出があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、104,188千円（前年同四半期は24,384千円の使用）となりました。これは主として、長期借入金の返済による支出109,704千円等があったことによるものであります。

この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結累計期間末残高は、971,745千円となりました。

（4）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

（5）研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、22,974千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,647,375	6,647,375	東京証券取引所 (市場第二部)	完全議決権株式であり、剰余金の配 当に関する請求権その他の権利内容 に何ら限定のない、当社における標 準となる株式です。なお、当社は種 類株式発行会社ではありません。 普通株式は振替株式であり、また、 単元株式数は100株です。
計	6,647,375	6,647,375		

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成26年8月1日から本四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年6月30日		6,647,375		1,003,158		253,158

(6) 【大株主の状況】

平成26年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
有限会社川端本舗	神奈川県横浜市都筑区大丸7-26	294,000	4.42
川上 陽介	東京都世田谷区	246,400	3.70
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	206,300	3.10
川端 一生	神奈川県横浜市都筑区	198,135	2.98
株式会社NTTドコモ	東京都千代田区永田町2-11-1	193,200	2.90
ダイワボウ情報システム株式会社	大阪府大阪市中央区本町3-2-5	105,000	1.57
東映アニメーション株式会社	東京都練馬区東大泉2-10-5	101,700	1.52
協和青果株式会社	埼玉県越谷市新川町2-68-5	100,000	1.50
高田 裕也	神奈川県川崎市宮前区	100,000	1.50
中山 玉栄	東京都板橋区	99,795	1.50
計		1,644,530	24.73

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,607,200	66,072	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。なお、単元株式数は100株です。
単元未満株式	普通株式 38,675		
発行済株式総数	6,647,375		
総株主の議決権		66,072	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己保有株式が70株含まれております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アートスパークホール ディングス株式会社	東京都新宿区西新宿4-15-7	1,500		1,500	0.02
計		1,500		1,500	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,323,533	1,108,760
売掛金	552,076	362,052
製品	30,453	20,881
仕掛品	18,926	60,591
原材料及び貯蔵品	99,376	89,571
その他	119,140	127,473
貸倒引当金	12,608	6,662
流動資産合計	2,130,897	1,762,669
固定資産		
有形固定資産		
建物	113,436	120,735
減価償却累計額	77,681	82,961
建物(純額)	35,755	37,774
工具、器具及び備品	209,417	244,219
減価償却累計額	189,439	216,251
工具、器具及び備品(純額)	19,977	27,968
有形固定資産合計	55,733	65,742
無形固定資産		
ソフトウェア	855,846	930,714
ソフトウェア仮勘定	88,189	137,918
のれん	27,964	150,247
その他	31,039	32,505
無形固定資産合計	1,003,040	1,251,386
投資その他の資産		
投資有価証券	203,623	198,540
敷金及び保証金	193,517	202,028
その他	55,978	62,549
貸倒引当金		290
投資その他の資産合計	453,119	462,828
固定資産合計	1,511,893	1,779,957
繰延資産	7,914	6,696
資産合計	3,650,704	3,549,323

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	168,904	136,754
短期借入金	390,000	422,364
1年内返済予定の長期借入金	206,879	175,625
未払法人税等	19,776	13,119
返品調整引当金	8,292	11,070
賞与引当金		8,857
その他	227,154	255,681
流動負債合計	1,021,006	1,023,473
固定負債		
長期借入金	267,512	370,508
退職給付引当金	72,078	74,284
繰延税金負債	3,895	3,438
固定負債合計	343,485	448,230
負債合計	1,364,491	1,471,703
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,320	1,003,158
資本剰余金	479,447	482,285
利益剰余金	773,184	546,329
自己株式	609	769
株主資本合計	2,252,343	2,031,003
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,382	6,457
その他の包括利益累計額合計	7,382	6,457
新株予約権	26,486	30,236
少数株主持分		9,922
純資産合計	2,286,213	2,077,620
負債純資産合計	3,650,704	3,549,323

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
売上高	1,858,689	1,437,632
売上原価	1,215,472	1,105,852
売上総利益	643,217	331,779
返品調整引当金戻入額	3,775	8,292
返品調整引当金繰入額	3,055	11,070
差引売上総利益	643,937	329,001
販売費及び一般管理費	626,632	547,159
営業利益又は営業損失()	17,305	218,158
営業外収益		
受取利息	241	442
受取配当金	6,900	2
為替差益	2,549	-
関係会社清算損失引当金戻入益	6,395	-
事業構造改革引当金戻入益	14,934	-
貸倒引当金戻入額	-	527
その他	2,160	1,426
営業外収益合計	33,182	2,397
営業外費用		
支払利息	4,639	4,237
為替差損	-	3,374
持分法による投資損失	13,277	2,773
その他	4,418	3,792
営業外費用合計	22,334	14,178
経常利益又は経常損失()	28,152	229,939
特別利益		
負ののれん発生益	-	13,849
新株予約権戻入益	4,431	421
持分変動利益	7,438	-
その他	-	46
特別利益合計	11,870	14,317
特別損失		
支払和解金	7,600	-
投資有価証券評価損	11,004	1,027
特別損失合計	18,604	1,027
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	21,418	216,649
法人税等	4,017	10,361
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	17,401	227,011
少数株主損失()	-	155
四半期純利益又は四半期純損失()	17,401	226,855

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	17,401	227,011
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14,025	925
その他の包括利益合計	14,025	925
四半期包括利益	3,375	227,936
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,375	227,781
少数株主に係る四半期包括利益	-	155

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	21,418	216,649
減価償却費	254,850	271,862
株式報酬費用	708	4,171
新株予約権戻入益	4,431	421
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,122	6,209
返品調整引当金の増減額(は減少)	719	2,778
退職給付引当金の増減額(は減少)	11,377	2,206
関係会社清算損失引当金の増減額(は減少)	6,395	-
事業構造改革引当金の増減額(は減少)	81,133	-
受取利息及び受取配当金	7,141	444
支払利息	4,639	4,237
為替差損益(は益)	1,678	412
持分法による投資損益(は益)	13,277	2,773
持分変動損益(は益)	7,438	-
負ののれん発生益	-	13,849
投資有価証券評価損益(は益)	11,004	1,027
売上債権の増減額(は増加)	139,464	274,488
たな卸資産の増減額(は増加)	85,935	11,055
仕入債務の増減額(は減少)	12,524	63,232
その他	22,061	3,613
小計	271,573	255,710
利息及び配当金の受取額	241	1,798
利息の支払額	4,624	4,714
法人税等の支払額	4,546	7,962
営業活動によるキャッシュ・フロー	262,643	244,832
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,861	1,836
定期預金の払戻による収入	57,137	100,062
有形固定資産の取得による支出	8,492	11,395
有形固定資産の売却による収入	-	237
無形固定資産の取得による支出	253,967	397,832
無形固定資産の売却による収入	-	280
貸付けによる支出	20,000	-
貸付金の回収による収入	20,000	21,109
投資有価証券の取得による支出	9,950	-
投資有価証券の売却による収入	2,070	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	33,846
差入保証金の差入による支出	6,210	1,250
敷金の回収による収入	400	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	220,873	256,777

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100,000	200,000
短期借入金の返済による支出	-	200,000
長期借入金の返済による支出	124,286	109,704
株式の発行による収入	-	5,675
自己株式の取得による支出	98	160
財務活動によるキャッシュ・フロー	24,384	104,188
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,678	412
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	19,064	116,545
現金及び現金同等物の期首残高	939,597	1,088,291
現金及び現金同等物の四半期末残高	958,661	971,745

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の変更)

第1四半期連結会計期間において、株式会社エイチアイが、株式会社エイチアイ関西の株式を取得したため、連結の範囲に含めております。これに伴い、当第2四半期連結会計期間より損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書を連結しております。また、平成26年4月15日付で株式会社エイチアイが、株式会社U'eyes Designの株式を取得し、子会社化しております。なお、みなし取得日を平成26年6月30日としており、当第2四半期連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日至平成26年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日至平成26年6月30日)
給料手当及び賞与	196,783 千円	155,683 千円
退職給付費用	4,557 千円	4,127 千円
貸倒引当金繰入額	1,307 千円	5,681 千円
賞与引当金繰入額	千円	8,857 千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日至平成26年6月30日)
現金及び預金	1,258,528 千円	1,108,760 千円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	299,866 千円	137,014 千円
現金及び現金同等物	958,661 千円	971,745 千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成25年3月開催の定時株主総会決議により、利益剰余金の欠損填補を行い、資本剰余金のうち
1,388,473千円を減少し、資本剰余金は479,126千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	636,771	290,143	812,399	118,474	1,857,789	900	1,858,689
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,830	-	340	980	4,152	4,152	-
計	639,602	290,143	812,740	119,455	1,861,942	3,252	1,858,689
セグメント利益又はセグメン ト損失()	48,456	61,576	1,032	2,058	14,146	31,452	17,305

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失()の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	551,546	352,502	453,765	82,779	1,440,593	2,961	1,437,632
セグメント間の内部売上高 又は振替高	35,000	224	-	-	35,224	35,224	-
計	586,546	352,726	453,765	82,779	1,475,817	38,185	1,437,632
セグメント利益又はセグメン ト損失()	32,111	14,531	293,880	28,621	218,616	457	218,158

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失()の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社株式会社エイチアイが、株式会社エイチアイ関西の株式を取得し子会社化したことに伴い、UI/UX事業において負ののれん発生益13,849千円を特別利益に計上しております。

また、平成26年4月15日付で株式会社エイチアイは、株式会社U'eyes Designの株式を取得し、子会社化したことにより、UI/UX事業においてのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において125,778千円であります。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 株式会社U'eyes Design

事業の内容 コンピュータ機器・装置・システムの企画、開発、設計、デザイン及びコンサルタント

企業結合を行った主な理由

UI/UX事業における、顧客の問題解決、利用品質向上及び「デザインエンジニアリング」の活動推進のためであります。

企業結合日

平成26年4月15日

企業結合の法的形式

第三者割当増資引受

結合後企業の名称

名称変更はありません

取得した議決権比率

株式取得直前に所有していた議決権比率 0.0%

取得後の議決権比率 60.6%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社子会社株式会社エイチアイが、現金を対価として株式会社U'eyes Designの株式を取得したためであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年6月30日をみなし取得日としているため、当第2四半期連結累計期間には、被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	40,000千円
取得原価	40,000千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん金額

125,778千円

発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力から発生したものです。

償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()	2円62銭	34円14銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(千円)	17,401	226,855
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(千円)	17,401	226,855
普通株式の期中平均株式数(株)	6,635,140	6,644,841
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
(うち支払利息(税額相当額控除後)(千円))		
普通株式増加数(株)		
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。また、当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8 月 8 日

アートスパークホールディングス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 野 淳 史 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 井 広 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアートスパークホールディングス株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アートスパークホールディングス株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。